2026年10月21日

ベトナムのFDIの動向（2026年7－9月期）

New-S Wealth Management

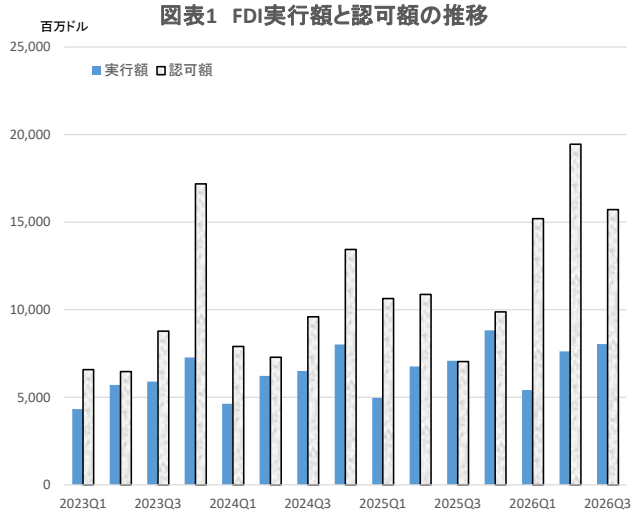
《2026年7－9月期のFDI認可額は前年同期比123.2%増の大幅な増加》

ベトナムの2026年7－9月期のFDI（Foreign Direct Investmentの略で海外資本のベトナム国内への直接投資を意味する）認可額（推定値、以下同様）は前年同期比123.2%増の157.1億ドルに拡大した。7－9月期の電子機器・コンピュータ部品の輸出額が同76.1%増と大きく伸びており、FDI企業による一段の供給力増強が愁眉の急となっているようで、FDI認可額の中でも特に新規認可額が同283.5%増の118.5億ドルと急増している。なお、このようなFDI企業の積極的な投資の動きは、グローバルIT企業のサプライチェーンにおけるベトナムのポジションが一段と確固たるものになった可能性を示唆するものと理解することができるだろう。また、このような積極的な投資決定が、2026年2月以降の中東の混乱の渦中にあっても進んだことも評価に値するだろう。

一方、FDI実行額は同13.6%増の80.4億ドルとなった。実行額の先行指標である認可額が急増しているのに対し、前年同期比で10%を超える水準の緩やかな伸びが続いている。認可された投資が実行に移行するまでには用地取得や工事の認可などの手続きといったプロセスがあるうえ、実際に工事を担当する業者の供給能力も実行への移行を制約する可能性があり、今後も認可額に連動して急激に伸びる可能性は低いと考えられる。ただし、AIを中心とした世界のハイテク産業の成長が継続し、グローバルIT企業のサプライチェーンにおけるベトナムの魅力が高まるのであれば、認可された投資は時間の問題で実行に移され、ベトナムのGDP成長を牽引することは十分に期待できるだろう。

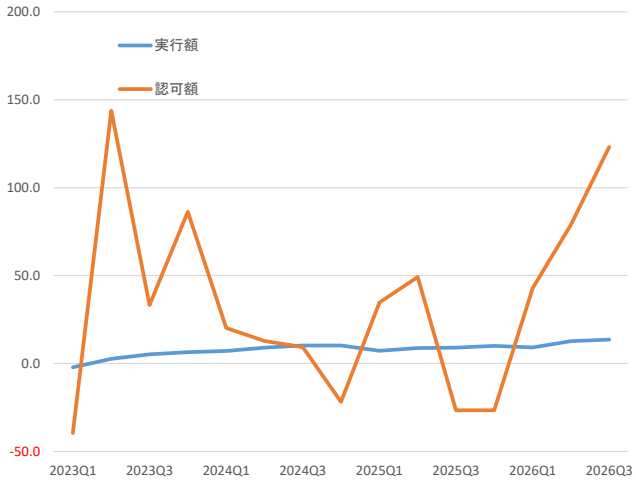
ベトナムが官民を挙げて次のステージに備えていることも評価する必要があるだろう。IT産業のグローバルサプライチェーンにおける一定のポジションをつかんだうえで、人材育成を軸に半導体の組立工程への進出といった動きがみられ、ハイテク産業を中心とした中長期的な経済成長の持続性を高める動きも見落とすことはできないだろう。

図表1　FDI実行額と認可額の推移



注　Q1は1−3月期、Q2は4-6月期、Q3は7-9月期、Q4は10－12月期を表している
出所　各種資料をもとに当社作成

図表2　FDI実行額と認可額の前年同期比推移



注　Q1は1−3月期、Q2は4-6月期、Q3は7-9月期、Q4は10－12月期を表している
出所　各種資料をもとに当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長（金商）第138号】
加入協会　日本証券業協会　一般社団法人資産運用業協会
主な事業　金融商品取引業

有効期限作成日より180日　News20261021

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものですが、その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク（カウンターパーティーリスク）、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。